

学校の教育目標 みんなが<ごきげん>な学校  
めざす児童像 やさしい子 正しく考える子 粘り強くがんばる子

【評定基準】 A:8割以上が肯定(目標を達成) B:6割以上が肯定(継続して努力を要する) C:6割未満が肯定(改善を要する)

【昨年度との比較】 -現状維持 ↑上昇 ↓下降 ※新規

【アンケート】 4:できている 3:だいたいできている 2:あまりできていない 1:できていない

項目	評価指標及び目標値	評定	評価資料	評価	比較	集計結果(%)				考察・改善策	
						肯定度	4	3	2		1
教育目標	みんなが<ごきげん>な学校になっているか。	A	教職員アンケート	A	—	93	12	81	7	0	学校の教育目標「みんなが<ごきげん>な学校」を目指し、教育活動を行っている。教職員、児童、保護者、地域ともに肯定率が90%以上のA評価で、垣生小学校に関わる人たちが、気分のよい状態になっているといえる。保護者や地域の方は、学校を訪れた時に児童が楽しく<ごきげん>に学校で過ごしていると感じていた。4の評価がさらに増えるよう、継続して取り組んでいきたい。
			児童アンケート	A	—	91	70	21	6	3	
			保護者アンケート	A	—	94	19	75	4	2	
			地域アンケート	A	—	96	43	53	4	0	
豊かな心の育成	明るい挨拶ができる児童が育っているか。	B	教職員アンケート	A	↑	81	5	76	19	0	挨拶については、これまでの評価も低く、今回も保護者の評価がBで、本校の課題であると言える。特に保護者から、「旗当番をしている時に声を掛けても挨拶が返ってこない。」「できていても全体的に声が小さい。」「挨拶ができる児童とできない児童の差が大きい。」と指摘を受けた。日々の継続した指導により、学校で挨拶をする児童が増えてきているが、引き続き教師が率先して挨拶を呼び掛けるとともに、家庭とも連携して粘り強く取り組んでいき、明るい挨拶が響き合う学校にしていきたい。
			児童アンケート	A	—	81	37	44	14	5	
			保護者アンケート	B	—	68	10	58	28	4	
			地域アンケート	A	—	85	47	38	15	0	
	学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てているか。	A	教職員アンケート	A	—	95	24	71	5	0	教職員、児童、保護者、地域ともA評価となっている。学校ではいじめ防止基本方針に基づき、定期的に児童や教職員へのアンケート、教育相談を実施するなど早期発見、早期解決に取り組んでいる。教職員はいじめや差別は許さないという共通理解のもと、学級づくりを行い、児童間でトラブルや問題行動があれば、迅速にいろいろな立場の者が複数で対応し解決に努めている。
			児童アンケート	A	—	95	64	31	4	1	
			保護者アンケート	A	—	90	20	70	8	3	
			地域アンケート	A	—	96	41	55	0	5	
	学校は、「学校の決まり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童の実態に応じた適切な指導を行っているか。	A	教職員アンケート	A	※	91	21	70	7	2	教職員、保護者、地域ともA評価となっている。学校の決まりについては、統一した指導ができるよう、定期的に教職員で共通理解を図っている。児童への指導については、日頃から十分なコミュニケーションをとり、一人一人の実態に合った指導ができるよう、組織的に取り組むとともに、保護者と連携して指導していきたい。
			保護者アンケート	A	—	89	22	67	9	2	
			地域アンケート	A	—	94	39	55	6	0	
	学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っているか。	A	教職員アンケート	A	—	96	31	65	2	2	教職員、保護者、地域ともA評価となっている。一人一人の実態に合った教育活動が行えるよう、継続的に児童理解や効果的な指導方法について情報共有を行っている。また、特別支援教育コーディネーターが中心になって、学習支援員や生活支援員ともしっかり連携できるような情報交換を行っています。
保護者アンケート			A	—	93	28	65	6	1		
地域アンケート			A	—	90	55	35	10	0		
学校は、将来に夢を持ち、自分の進路や生き方について考える児童を育てているか。	A	教職員アンケート	A	—	86	10	76	14	0	教職員、児童、保護者、地域ともA評価となっている。特に、児童の肯定率が93%と高い。キャリア・パスポートを効果的に活用し、それぞれの学年において、今、自分が頑張っていることや自分の成長を確認して、今と未来をつなげていくように取り組むとともに、総合的な学習の時間「はつらつ」でキャリア教育を推進し、自分の夢や生き方について考えていけるようにしていきたい。	
		児童アンケート	A	—	93	62	31	6	1		
		保護者アンケート	A	—	80	14	66	19	1		
		地域アンケート	A	—	89	22	67	11	0		
学校関係者評価委員の所見		自主的に挨拶をしてくれる児童が増えた。特に低学年が元気な挨拶や返事を返してくれてうれしい。挨拶をする意味についても指導してほしい。				学校の対応		挨拶の意味を考えさせるとともに、いろいろな場面を捉えて、教職員からしっかりと挨拶を行い、習慣化するよう根気強く取り組んでいきたい。家庭や地域とも連携を図り、明るい挨拶が響く、学校、家庭、地域にしていきたい。			

確かな学力の定着・向上	学校は、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っているか。	A	教職員アンケート	A	—	100	17	83	0	0	教職員、児童、保護者、地域ともA評価となっている。「焦点化」「視覚化」「共有化」を授業改善のキーワードとして、どの子も分かる、できる授業づくりに取り組んでいる。また、タブレット端末を活用して「視覚化」「共有化」を図ることで、児童にとってより分かる授業となり、自分の伸びを感じることができたと思う。今後も、限られた授業時間の中で、分かる授業・個に応じた指導ができるよう教職員が協力して、研修・準備を進めていきたい。
			児童アンケート	A	—	95	71	24	4	1	
			保護者アンケート	A	—	91	18	73	8	1	
			地域アンケート	A	—	89	22	67	11	0	
	学び合いながら考えを深める児童が育っているか。	A	教職員アンケート	A	—	90	10	80	10	0	新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じて、可能な限り学び合いの学習を取り入れたが、コロナ禍では学び合いの機会が減り、児童はB評価となっている。授業の中で二人組やグループ、学級全体などいろいろな形態で話し合う機会を意図的に取り入れ、児童の考えを共有していきたい。また、個に応じた言葉掛けや指導の工夫をしていきたい。
			児童アンケート	B	↓	73	35	38	21	6	
	児童は進んで読書をしているか。	B	教職員アンケート	A	—	88	14	74	12	0	年々少しずつ評価は高くなっているが、全体としての評価はBで、依然として本校の課題である。本への興味を高めるために、地域のボランティアの方が読み聞かせを行ったり、図書館支援員が本を選ぶときの相談に乗ったりしている。また、学級でも、読み聞かせを行ったり、読書の機会をつくるために、週に1度図書室に行って本を借りるようにしたりするなど、取組を行っている。家庭での読書への啓発も図ってきたい。
			児童アンケート	B	—	71	41	30	20	9	
			保護者アンケート	B	—	70	27	43	25	5	
	学校は、教科等の指導において効果的にICTを活用しているか。	A	教職員アンケート	A	—	100	50	50	0	0	一人一台のタブレット端末が導入され、教科等の指導においてICTを活用する機会が増えてきている。また、タブレット端末の家庭への持ち帰りが本格的に始まり、家庭の学習にも活用している。より効果的に活用したり、学級間の格差がないようにしたりするため、継続的に教職員研修や情報共有を行ってきたい。
			児童アンケート	A	—	88	61	27	8	4	
			保護者アンケート	A	↑	89	32	57	10	1	
	学校は、児童の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	A	教職員アンケート	A	—	93	14	79	7	0	全国学力・学習状況調査では、全国と県の平均を上回った。県学力診断調査は、今年度はタブレット端末を使用して行った。さらに、個別の学力や体力については、日々の授業や単元におけるまとめテスト、体力テスト等で把握するようにしている。学力や体力に関する調査の結果を踏まえ、個に応じた指導を行うことで、学力、体力の向上を図ってきたい。
			保護者アンケート	A	—	91	73	18	9	0	
	学校関係者評価委員の所見	小学校段階から読書習慣を身に付けるだけでなく、いろいろなジャンルの本に親しんでほしい。図書室が「学びの拠点」となる取組を期待する。		学校の対応	松山市やPTAの予算から本を購入し、図書室の充実を図っている。今後もいろいろなジャンルの本に親しめるように計画的に本を購入し、本の紹介もしていきたい。また、引き続き図書館便りを通して、家庭での読書の啓発も図ってきたい。また、図書室が本を借りる場としてだけでなく、教科等の学習で利用する場としても充実させていきたい。						

健やかな体の育成	児童は、運動に親しみ、体力づくりに努めているか。	A	教職員アンケート	A	—	93	19	74	7	0	教職員、児童、保護者、地域ともA評価となっている。コロナ禍により、マスクの着用、密を避けるなど、感染予防をしながらであるが体育科の授業で体をしっかり動かすとともに、業間や昼休みには多くの児童が進んで運動場で遊ぶなど、運動に親しんでいる。また、今年度も、マラソン大会をタイムで順位を決める「垣生っ子ランランラン」に変更して実施するなど、工夫しながら体力づくりに取り組んだ。
			児童アンケート	A	—	80	57	23	15	5	
			保護者アンケート	A	—	84	23	61	14	2	
			地域アンケート	A	—	100	33	67	0	0	
健やかな体の育成	学校は、個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童の健康保持・増進に努めているか。	A	教職員アンケート	A	—	100	48	52	0	0	家庭とも連携も図りながら、児童の健康状態の確認に努めている。基本的な生活習慣の要となる、「早寝・早起き・朝ご飯」については、今後も学級での指導や保健便り等での啓発により、よい習慣が身に付くようにしていきたい。また、家庭との連携が一層図れるよう、学校保健委員会や保健便り等で啓発していきたい。
			児童アンケート	A	—	80	44	36	14	6	
			保護者アンケート	A	—	97	25	72	2	1	
	学校は、「3つの密」を徹底的に避ける、「マスクの着用」及び「手洗いなどの手指衛生」など、校内における新型コロナウイルス感染症対策を適切に行っているか。	A	教職員アンケート	A	※	100	57	43	0	0	全校で教室の換気、マスクの着用、手洗い・手指消毒の徹底に取り組んだ。夏場は熱中症の心配もあり、マスクの着用の徹底ができないこともあったが、現在は給食の時以外はマスクが着用できるようになっている。また、各学級に手指消毒液を配付し、必要な時に確実に手洗いや消毒ができています。気を緩めることなく、今後も継続して取り組んでいきたい。
			児童アンケート	A	※	97	79	18	3	0	
			保護者アンケート	A	※	98	42	56	1	1	
			地域アンケート	A	※	96	61	35	0	4	
	地域に根ざした教育の推進、地域連携、情報発信	地域の人・自然・歴史・伝統や文化にふれ合う学習を推進しているか。	A	教職員アンケート	A	↑	88	26	62	12	0
児童アンケート				A	—	92	59	33	6	2	
保護者アンケート				A	—	97	43	54	3	0	
地域アンケート				A	—	96	76	20	4	0	
児童は楽しく俳句づくりに取り組んでいるか。		B	教職員アンケート	A	↑	95	19	76	5	0	本校は、俳句の里として俳句づくりに取り組んでいる。昨年B評価だった教職員、保護者ともにA評価となったが、引き続き児童がB評価となり、課題といえる。今年度は、昨年度の反省を生かし、学校で俳句をつくり終えるようにした。苦手意識をもっている児童も多くいることから、楽しみながら俳句づくりができるよう、俳句朝会を開いてポイントを示しながら俳句をつくらせたり、俳句の紹介や季語のクイズを行ったりした。作品の質も年々向上し、入賞者が多く出た。取組を継続したい。
			児童アンケート	B	—	75	37	38	16	9	
			保護者アンケート	A	↑	82	33	49	14	4	
学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力しているか。		A	教職員アンケート	A	—	98	24	74	2	0	コロナ禍により、学校行事が実施できないこともあり、連携・協力が不十分な点もあった。感染対策をしっかり取った上で、今の状況に合った連携の在り方を考えていきたい。保護者や地域の声にしっかりと耳を傾け、垣生小学校の子どもたちを共に育てていくため、連携・協力を図っていきたい。
			保護者アンケート	A	—	91	22	69	8	1	
			地域アンケート	A	—	96	60	36	4	0	
学校は、学校・学年だよりやホームページ等により、積極的に情報を発信しているか。		A	教職員アンケート	A	—	100	45	55	0	0	教職員、保護者、地域とも高い肯定率である。学校便り「ひびき」、学年便りをはじめとして、保健・図書などの紙面による情報、ホームページによる情報など、全校や各学年の活動の様子が見えるように努めている。今後も、ホームページの一層の充実を図るなど、学校からの情報提供に努めていきたい。
			保護者アンケート	A	—	98	50	48	2	0	
	地域アンケート		A	—	100	65	35	0	0		
学校関係者評価委員の所見	学校便りで児童とつながることができる。町づくりのためにも地域とつながってほしい。垣生の歴史についてもっと学習してほしい。『ふるさと松山学』でどんなことを学習しているのか。	学校の対応	『ふるさと松山学』では、松山の偉人について学習している。伊予かすりの鎌谷カナについても、3年生が総合的な学習の時間に、学習に取り組んでいる。引き続き「ふるさと学習」を推進し、発達段階に応じて垣生のよさを生かした特色ある教育活動を実践し、「ふるさと垣生」に愛着を感じる児童を育てていきたい。								

